



日本初の国立公園

〜霧島屋久国立公園〜

原始のたたずまいを残す
広大な山岳風景が
世界に誇れる景勝地として
日本初の国立公園に選定された。

霧島屋久国立公園は、鹿児島県と宮崎県にまたがる火山群の霧島地域、桜島を中心とする錦江湾地域、そして南方海上に位置する屋久島地域からなる総面積6万794ヘクタールの国立公園です。

霧島地域が、日本初の国立公園として指定を受けたのは、昭和9年のこと。19世紀後半に世界初の国立公園を制定したアメリカの例を参考に、日本の国立公園選定に向けたさまざまな提案や議論がなされ、大正10年から候補地の調査が行われました。調査の結果、国内16カ所が候補地として選出され、昭和7年には霧島地域を含めた12の地域が国立公園の指定地域候補として内定しました。

当時の選定要領によると、要件には以下のようなものがありました。「同一風景型式を代表して傑出していること」、「区域が広大であること」、「地形地貌が雄大である、または風景が変化に富み美しいこと」、「予定地の大部分が国有または公有であり、保全に適していること」、「多数の人の利用に適していること」。霧島地域は、このようなさまざまな要件を満たし、昭和9年



5



2

(写真提供:国立公園協会)



1



6

(写真提供:鹿児島県立博物館)



3

(写真提供:国立公園協会)



4

(写真提供:馬渡写真館)

- ①霧島連山と桜島 ②整備される前のえびの高原(昭和31年頃) ③天然スケート場として利用された白紫池(昭和31年頃)
 ④指宿市の知林ヶ島周辺の海岸線と魚見岳(昭和30年代) ⑤多数の観光客が訪れる屋久島の縄文杉
 ⑥大正噴火直後の溶岩地帯(写真上)と、植生が進みクロマツ林が広がる現在の桜島溶岩原(写真下)。

3月16日に瀬戸内海・雲仙とともに日本初の国立公園として指定され、「霧島国立公園」が誕生しました。

その後、昭和30年に国定公園の指定を受けていた錦江湾地域と屋久島が国立公園に昇格・編入され、昭和39年3月に「霧島屋久国立公園」となりました。

国立公園の指定後、公園内には、より深く自然と触れ合えるようビジターセンターや、展望施設、登山道などが整備されました。また、野生動植物の豊かな国立公園では、自然環境の保護も重要です。霧島屋久国立公園では、行政による自然公園指導員、自然保護推進員などの配置のほか、各地ボランティア団体による公園内の清掃、登山道の管理・利用指導など、地域と行政が一体となった活動によって、公園内の自然環境が保護されています。

平成19年に口永良部島が編入されたのに続き、平成24年3月には始良カルデラが新たに追加される予定です。これにあわせて、保護の目的などを明確化するため、火山活動によつてできた地形や景観が中心の霧島錦江湾地域と、独特の生態系の景観を有する屋久島地域とに分割され、それぞれが国立公園として指定されることとなり、霧島屋久国立公園は、「霧島錦江湾国立公園」、「屋久島国立公園」として生まれ変わるようになりました。

太古の風景を今に伝える霧島連山や、火山活動による自然の造形、南海に浮かぶ独特の生態系は、私たちが先祖から受け継いだ尊い景色であり、宝です。この魅力ある美しい自然を守り、次の世代へ伝えていかなければなりません。